

## 私の命と剣道

静岡県

富岳館

小学6年 窪田咲姫

平成十九年、私は心臓に病気を持って生まれてきました。ふつうに生活をするには何もしようはありませんでしたが、はげしい運動は胸が苦しくなるので止められていました。だから仕方なくピアノを習う事にしたのです。

すでに父と兄は剣道のけいこに通っていました。毎日楽しそうに剣道の話をしている二人の姿を見るたびに私の心の中はおだやかではありませんでした。

兄が大好きだった私は、「このままじっとしていれば父に兄を取られてしまう。自分の人生は自分で決め、やりたい事は自由におもいきりやりたい。」と思い、一年生の時に心臓の手術をする決心をしました。

まだ七歳だった私は、心臓が体の中でどれだけ大事な役目をしているのかわかりませんでした。「知らぬは仏ばかり」と手術を受ける事にしたのです。しかし、手術が始まる前に麻酔をかけられる時には、このまま目がさめないのではないかと怖くなりふるえが止まりませんでした。でも、この手術をして治れば大好きな兄と一緒に剣道ができる。友達と同じ事ができる。そんな期待もありました。

麻酔から目がさめ、お医者さんから「頑張ったね、大成功だよ」と言われた時、うれしさと同時に頭にうかんだのは、不思議なことに、まだ一度も経験した事のない、父と兄と私が剣道のけいこをしている姿でした。

退院してお医者さんの指導に従い、少しずつ剣道ができる様になると、今度は兄に負けたくないという気持ちが強くなっていきました。だから両親の心配をよそに、けいこが苦しい時もつらい時でも、なみだをこらえ歯をくいしばり、自分でしっぺきれいし、弱音をはきませんでした。そこでそれらの高いハードルを乗り越えるために、私は色々な事に感謝する事しました。一つ、両親に私を産んで大事に育ててくれてありがとう。二つ、私をかげから支えてくれる先生や家族にありがとう。三つ、剣道ができる事にありがとう。そして四つ目は、これからも健康でずっと剣道が続けられます様に、という願いです。私はこの三つの感謝と一つの願いを込めて、試合やけいこの前は右手でひだり胸を『トン』とたたき、(さあ、いくぞー!)という気持ちで望みます。

すっかり剣道のみりよくにはまってしまった私ですが、もう一つの病気に悩まされています。それはアレルギーによって出るせきです。けいこの途中からゼイゼイして苦しくなってしまいます。館長先生もけいこの時には何度も私の顔色や呼吸を気にかけてくれます。大人になれば治ると言われていますが、本当につらいです。でも私はへこたれません。胸にある手術のあととは、(咲姫!! 頑張れ)というはげましの印であり、(頑張れる)という希望の印でもあるのです。その頑張りで、五月の試合の個人戦で優勝し全国大会に出場できるようになりました。一生消えないこの胸の傷は私のくんしょうです。

自分が病気になって、命があり健康で剣道ができるありがたさを痛感しました。命は一人に一つしかない大切なものです。どんな事があっても、人の命をいじめなどで勝手にうばったり、自分で自分の命を絶つことは絶対に許されません。

今、私の夢は、私の様に病気を持って産まれてきた子供の命を救ってあげられる、お医者さんになる事です。大事な心臓が正しく動き、大好きな剣道がいつまでも続けられる様に、これからも大きな夢は頑張れば頑張っただけ近づいてくるのです。だから、感謝と希望と願いを込めて、今日も私は左胸を『トン』とたたいて、日進月歩、夢を目指して頑張ります。